

子どもたちの未来のために スマートフォン必要ですか

暇音といえは
二葉保育園
73-1530

スマホの父の言葉

「あなたの子どもたちは、iPadの機能を全て引き出して使っているのでしょうか？」
2010年、ニューヨーク・タイムズ紙の記者がスマートフォンの産みの親と言われるスティーブ・ジョブズにこう尋ねた際、彼は驚くべき回答をしました。「彼らは使っていないよ。私たちは、家で子どもたちが使うテクノロジーの量を制限しているんだ」と答えたとそうです。

作った人たちは危険性を知っていた

またフェイスブックなどのSNSに使われている「いいね」ボタンを最初に作ったジャスティン・ローゼンスタインは『スマホは依存性ではヘロインに匹敵する』と言って、スマホの使用にブレーキをかけるために、親が子供のスマホ使用を制限するためのアプリを作成し、自分の子どものスマホにインストールしたそうです。

世界中を熱狂させ、現代人の生活に欠かせないスマートフォンやタブレットを開発した張本人が、またSNSの基礎を気づいたような人が、なぜ自分の子どもにはそれを与えなかったのでしょうか？また、なぜ自分の子どものためにスマホを制限するアプリを作ったのでしょうか？それは、テクノロジーの最前線にいる彼らこそが、そのデバイスが持つ「麻薬のような依存性」と「子どもへの危険性」を誰よりも深く理解していたからです。私たちはそんな危険性などに気づかずに子どもたちに与えています。

富裕層も知っていた

また、日本においてもこのような話があります。臨床心理学者の奥田健次氏は自身の書籍において、以下のようなエピソードを書いています。ヤフーのCMなどをたくさん制作している博報堂の重役社員と会談する機会があった時に「みなさんはお子さんに貴社の作成しているCMで紹介されているスマホを持たせていますか」と聞いたそうです。すると役員のほとんどが「あんなリスクの高いものを我が子には持たせられない」と答えたそうです。彼らはスマホの購買意欲を掻き立てるCMを作成しますが、その商品の持つ危険性はよく理解していると奥田健次氏は述べています。



現在の日本の高校生において統計では94%の学生がスマホを所持しています。残りの6%は貧困家庭やスマホを買えない人などと言われていましたが、実は博報堂の役員など世帯所得3000万円を超える富裕家庭が、「子どもの未来に悪影響となるので持たせない」という現状も、この6%に含まれるそうです。94%の私たちは、ほぼみんなが同じように「子どもたちのため」と言いながらスマホを買い与えますが、本当にそれは子どもたちの未来のためになっているのでしょうか。